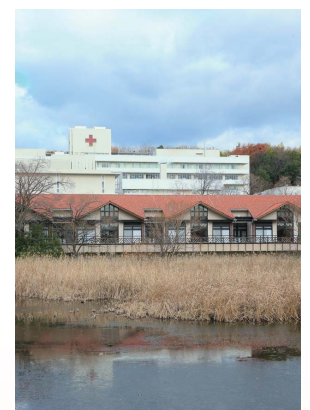




高槻赤十字病院
千葉渉 副院長

地域の登録医を増やし 病診一体の地域完結型病院へ 禁煙や感染症対策も行う

高槻赤十字病院の在り方として地域密着型を掲げ、地域住民、開業医との結びつきが重要だと話す千葉副院長。地域連携の動きに携わり、より強い地域との結びつきを求める動きと、その他の取り組みについてお話をうかがった。



病院の病棟とは別個にホスピス・緩和ケア病棟を設け、がん患者を受け入れている

地域連携をより強固に

もっと広範囲から
もっと多くの登録医を



1. 感染症の防止・対策を進めるため、消毒液の使用量や使用期限を確認するスタッフ
2. 地域医療が円滑に行われるよう、病院内外へのサポートを行う地域医療連携室のスタッフ

地域完結型の医療を目指す高槻赤十字病院は、2012年より地域医療連携室の活動を強化し、周辺地域の登録医件数の増加に乗り出した。「以前から当院を支えてくださった開業医の先生方から世代交代が進み、新たに活躍されている若い先生方との繋がりが希薄でした。そこで高槻、茨木、島本、摂津の診療所を回り、登録医数を増やしました。お陰様で紹介患者数が格段に伸びています。また、今までは当院がどういった病院なのかよく理解されていない部分もありました。実際、当院の新任ドクターの登録医への周知が数ヶ月遅れ、全く伝わっていません」といふこともありました。それらの点を改善するべく、登録医向けのメールマガジンを週に1回発信すること致しました。各診療科が始めた新しい取り組みや、その週の外来担当の予定表などを素早くお伝えします。また毎週「地域連携会議」を開き、地域連携に関する問題点の洗い出しと改善策の検討など、千葉先生も加わって議論している。地域の診療所との垣根をなくし、高槻赤十字病院の外来機能を登録医に積極的に利用していただく一方で紹介患者は全て引き受け、それほどの密接な関係を望み、その実現に向けての活発な動きが見て取れる。

高槻赤十字病院の取り組み

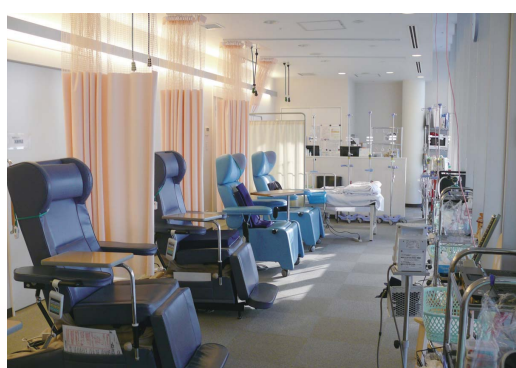
薬局を通じて禁煙サポート
感染症対策でも役割を担う

同院は大阪府のがん診療拠点病院に指定されている。その立場から、がんの地域連携バスの運営にも積極的に取り組んでいる。またホスピスを備え、ドクターが増員されたことから、がん患者の受け入れと治療への貢献にも意欲的だ。千葉先生は感染症や院内感染対策を扱うICTの専門資格を有し、「実はここ三島二次医療圏は感染症病床がない、大阪府下でも珍しいエリアです。当院では受け入れ治療する設備を備えていこうとしているので、感染症対策でも大きな役割を担うこととなります」とも話す。千葉先生の本来的専門分野呼吸器に関しては、禁煙サポートの取り組みが特徴的だ。「当院でももちろん禁煙指導を行っています。周辺の薬局を巻き込んで、薬剤師さんに禁煙指導のノウハウを伝えています。禁煙は思い立ったが吉日。土日曜にふと禁煙しようと思った時、病院は閉まっていますが、局ならすぐに駆けつけて始められます」。禁煙サポート薬局という登録制度で、病院のノウハウや処方薬をそのまま薬局で受けられるというシステム。高まりつつある禁煙のニーズに、病院の枠を超えて応えてくれる画期的な取り組みだ。肺がん患者数が大阪府下でトップクラスという同院らしい動きとも言えるだろう。

千葉先生の理想の医療

苦しみを未然に防ぐ
予防のための医療活動

千葉先生は今後の病院の在り方について理想像をお持ちだ。「今は病院は病気を治す場所ですが、病気になる前に予防するための場所という観点で運営できればと思います。市民公開講座、健康講座、コミュニティに向いての講座などを通して、皆さんに貢献できる病院にしたい。病気になるための予防法は、聞けばすぐに理解できます。あとはそれをどう実践するか。そんな時に気軽に相談に来てもらえるような、そんな病院が理想です」とのこと。患者さんの苦しみを、医者として治す以前に未然に防ぐ。そんな理想の医療の実現に期待したい。



肺がん患者が多いこともあって外来化学療法室の体制が強化され、可能であれば入院せずに治療を続けることを望む患者さんのニーズに応えられる